

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	後期集計結果	前期集計結果	成果と課題および改善策	当初示した判定基準	担当	
1 1 より高い志を持たせる進路指導	(1) 校外からの講師による講演会、ホーム担任等による面談を繰り返すなど、入学後の早い段階から進路についてより高い目標に挑戦する意識づけを行うとともに、保護者への情報提供を充実させる。	① 学年段階に応じたキャリア教育を実施し、講演会や体験型の講座、面談等を行う中で、進路目標を明確化できるよう指導する。	本校の行うキャリア教育や面談指導が進路を考えるうえで参考になったとする生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	達成度C 後期学校評価において肯定的な回答をした生徒の割合は72%であった。 1年生で 79.9% 2年生で 62.9% 3年生で 72.8%	達成度C 前期学校評価において肯定的な回答をした生徒の割合は71%であった。 1年生で 82.7% 2年生で 63.2% 3年生で 67.4%	昨年度12月の肯定的評価67.5%今年度7月の71%より向上した。特に3年生は、進路実現に向けて繰り返された個別面談の結果、評価が高まった。一方、2年生の評価が伸びていないが、2年生は「自分は自分なりに高い目標を掲げ、その実現に向けて努力している」と答えた生徒の割合が、7月67.8%→12月71.0%と3学年中で最も増えていることから、進路意識が高まり、より具体的な進路情報を求める気持ちが強まっていると考えられる。2年生については1月から開始した個別指導、2月9日の金沢星稜大学入試説明会や2月21日の看護セミナー・短大入試説明会を皮切りに、学年集会や個別面談をととして3年次につながる具体的な情報提供を強化していく。	C、Dの場合、生徒への情報提供のあり方や意識づけ方法を再検討する。	進路指導課各学年
	② ホーム担任等との面談を繰り返し、生徒が自己理解を深め、自己肯定感を高め、より高い進路目標を設定できるように支援する。	1・2年生の進学希望者のうち、四年制大学を志望する生徒の割合が A：65%以上 B：60%以上 C：55%以上 D：55%未満	達成度D 2月の進路希望調査の結果、1・2年生で四年制大学を志望する生徒は265人で、1・2年生進学希望者508人の52.2%に当たる。 1年生で 50.0% 2年生で 54.2%	9月の進路希望調査の結果、1・2年生で四年制大学を志望する生徒は241人で、1・2年生進学希望者513人の47.0%に当たる。 1年生で 41.1% 2年生で 52.2%	9月の調査時より増えたとはいえ、達成度はDである。1年生については進学希望者246人のうち43人が志望校種未定となっているので、面談等とおして志望を明確化できるように、また高い志望を設定できるように、指導していく。また1・2年生ともに、進級までの面談の中で将来設計に基づいた悔いのない選択ができてきているかを確認すると同時に、学習指導を推進し学力に自信が持てるように支援することで高い志望を維持させていく。	C、Dの場合、面談内容や時期、および面談回数等を再検討する。	進路指導課1・2年	
	③ 大学入試センター試験を目標とする生徒が増えるよう指導する。	センター試験において3教科以上受験した3年生の割合が A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：60%未満	達成度D 大学入試センター試験で3教科以上受験した生徒は177人で、3年生全体の58%に当たる。	1月に調査を行う。	3教科以上受験者177人は理系・文Iの85.5%。2教科受験も含めた大学入試センター試験受験者総数は190人で、3年生全体の62.5%に当たる。全体としては健闘したといえるので、達成度判断基準の見直しも検討する必要がある。しかし高校卒業時点での学力保証という観点から、今後も理系・文Iの生徒については3教科以上の受験100%を目指していく。	C、Dの場合、進路説明会や面談の内容およびセンター試験に向けた教科指導のあり方を再検討する。	進路指導課3年各教科	
	④ 推薦入試ばかりでなく、個別学力試験で合格するよう指導する。	個別学力試験で国公立大学への出願数が A：45人以上 B：40人以上 C：35人以上 D：35人未満	達成度C 国公立大学個別学力試験への出願数は延べ36人である。	1月に調査を行う。	センター試験直前の1月、さらにセンター試験後に、国公立大学出願を断念した生徒がおり、出願者は22人と伸び悩んだ。3年生スタート段階での、特に苦手科目における学力不足が最後まで影響し、目標点まであと一步届かなかったことが原因である。1・2年次からバランスの良い学力を育てることが本校の目下最大の課題である。とはいえ昨年度と比較すれば出願人数も前・中・後期をあわせた延べ出願数も倍増したことから、健闘したともいえるので、達成度判断基準の見直しも検討する必要がある。また次年度に向けて、現2年生の成績上位生徒には英数国3教科の個人添削指導を1月から開始しており、国公立大学出願者増・合格者増につなげたい。	C、Dの場合、教師による志望校研究や生徒の学力把握のあり方および5教科学習を維持させる教科指導のあり方を再検討する。	進路指導課3年各教科	
	⑤ 学習時間の調査を通して、自ら見通しを持って家庭学習に取り組む態度を育て、学習習慣の確立を図る。	1・2年生のうち、平均2時間以上家庭学習している生徒の割合が A：35%以上 B：30%以上 C：25%以上 D：25%未満	達成度D 2～3学期の家庭学習時間調査の結果、平均2時間以上家庭学習している1・2年生の割合は17.6%であった。 1年生で 18.0% 2年生で 17.1% 3年生で 48.4%	達成度D 1学期の家庭学習時間調査の結果、平均2時間以上家庭学習している1・2年生の割合は12.4%であった。 1年生で 13.2% 2年生で 11.6% 3年生で 28.9%	後期は、家庭学習課題の与え方の工夫、部活動との両立に向けた支援に、重点的に取り組んできた。その結果「自分は、授業の予習・復習や宿題、小テストの勉強などにしっかりと取り組んでいる」と回答した生徒の割合は前期71.0%→後期78.8%と上昇し、家庭学習時間も伸びたものの、目標には届かなかった。1学期と2～3学期を比較すると、定期考査2週間前から2時間以上家庭学習する生徒の割合が増え、逆に1時間未満しか学習しない生徒の割合は減っている。このことからテストをうまく使って生徒の家庭学習時間と学力を充実させる方策を検討中である。	C、Dの場合、普通科高校としての学習指導のあり方を再検討する。	教務課各学年各教科	
	⑥ PTA広報誌やメール配信等を活用し、本校における進路学習について、保護者への情報提供を一層充実させる。	PTA広報誌、学校HP、メール配信等の情報によって、本校の進路学習についてよく理解できるとする保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	達成度B 後期学校評価において肯定的な回答をした保護者の割合は82%である。 1年生保護者で 85.7% 2年生保護者で 80.6% 3年生保護者で 79.8%	達成度B 前期学校評価において肯定的な回答をした保護者の割合は83%である。 1年生保護者で 86.8% 2年生保護者で 81.4% 3年生保護者で 81.2%	今年度は各課の協力を得て、PTA広報誌に保護者対象進路講演会の概要や英検に関する情報を載せたり、メール配信で学習や進路指導に関する情報をこまめに提供したりと、保護者との情報共有に力を入れてきた。そのことに対して一定の評価は得られたと考えられる。今後も、生徒に配付する進路関係の資料が確実に保護者の目にとまるようにメール配信を徹底するとともに、次年度は保護者対象説明会等への参加を一層促し、保護者との情報共有・意見交換を推進していく。	C、Dの場合、情報提供の媒体および提供する情報の内容等について再検討する。	副校長 総務課 情報課 進路指導課	

重点目標		具体的取組	達成度判断基準	後期集計結果	前期集計結果	成果と課題および改善策	当初示した判定基準	担当	
	(2) 学力スタンダード、シラバスとの整合性をとりながら、授業・補習・朝学習を体系化する。また45分授業に見合った教授内容の精選・方法の再検討を行い、生徒の更なる学力向上を目指す。	① 学力スタンダードの作成・実践および評価の研究をとおして各教科の指導力が向上したと思う教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	学力スタンダードの作成・実践および評価の研究をとおして各教科の指導力が向上したと思う教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	<b>達成度D</b> 後期学校評価において肯定的な回答をした教員の割合は43.7%であった。	達成度D 前期学校評価において肯定的な回答をした教員の割合は36.3%であった。	目標には届かなかったが、教職員が真摯に研究協議に取り組み、課題を発見している結果ととらえたい。科目ごとの学力スタンダードの作成は今年度で一区切りとなる。本校の生徒の学力を入学時から卒業時までどのように育てて行くのかという視点から、まず教科内で、次に教科間・学年間で共通理解を深めるため、配列を検討しながら実践と評価の研究を継続していく。教職員が有効性を実感できるよう、シラバスと同様に教務課が主導していく。	C、Dの場合、各教科における研究・協議のあり方を再検討する。	教務課 各教科	
		② 授業をベースとして、補習・朝学習等の体系化を進める。	学習意欲が向上し学力が定着したと思う生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	<b>達成度B</b> 後期学校評価において肯定的な回答をした生徒の割合は70.2%であった。 1年生で 69.1% 2年生で 68.0% 3年生で 73.1%	達成度C 前期学校評価において肯定的な回答をした生徒の割合は64.7%であった。 1年生で 63.9% 2年生で 60.6% 3年生で 69.0%	「私は、生徒が高い進路目標を実現できるよう、同僚と協力しながら組織的な支援を推進している」と答えた教職員の割合は、7月80.0%→12月87.3%と顕著に伸びており、各学年や各教科において連携のとれた指導が推進されたと考えられる。今後は、成功した指導を反復・固定化して積み上げることににより、本校の生徒に適した学習指導の体系化を進めていく。	C、Dの場合、授業改善の状況、生徒の学習時間や成績等と照らし合わせ、指導法を再検討する。	教務課 各学年 各教科	
2	高校生としてまた将来の社会人として信頼される人間性を育む生活指導	(1) 遅刻をしない、挨拶をきちんとする等規律ある学校生活、規則正しい家庭生活を送り、誠実で品位ある言動ができる生徒を育成する。	① 時間を守る等、基本的な生活習慣の確立を図り、遅刻常習者への面談を強化する等、各学年ごとに遅刻を減少させる取組を実施する。	遅刻延べ人数が前年度と比較して A：20%以上減少した B：10%以上減少した C：10%未満の減少であった D：増加した	<b>達成度D</b> 1月までの遅刻延べ人数は942人、前年度同時期の遅刻延べ人数845人に対し111%（11%増）となった。	達成度C 1学期の遅刻延べ人数は245人、前年度同時期の遅刻延べ人数266人に対し92%（8%減）となった。	2学期まで前年度比97%であったが、1月に入ると急増し、D評価となった。1月は欠席も前年度比115%と増加した。特にセンター試験後の3年生の増加が目立つ。厳しい条件下での自己管理に課題がある。次年度は初冬から対策をとる必要がある。また、遅刻常習者（学期に3回以上）として指導を受けた生徒は1年生18人（6.4%）、2年生14人（5.0%）、3年生52人（17.1%）であった。1・2年生の常習者には、学年・生徒指導課が連携して、丁寧な面談を繰り返し、行動を修正させ前向きな意欲を持たせる支援的な関わりを継続している。	C、Dの場合、特に常習者の遅刻原因を究明し、生徒・保護者とともに対応策を検討する。	生徒指導課 各学年
		② 学校生活の中で、環境保全に対する生徒の意識を高める。	ゴミの分別、配付プリントの持ち帰り、教室やトイレの消灯等、校内の環境保全活動に積極的に取り組んでいる生徒の割合が A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：60%未満	<b>達成度A</b> 後期学校評価において肯定的な回答をした生徒の割合は75.4%であった。 1年生で 69.5% 2年生で 76.4% 3年生で 79.9%	達成度A 前期学校評価において肯定的な回答をした生徒の割合は71.7%であった。 1年生で 72.2% 2年生で 69.7% 3年生で 73.0%	前期学校評価と比べ、2・3年生の肯定的回答が上昇した。3年生については保護者の肯定的回答も56.4%→60.7%と上昇した。「省エネアクションプラン」や「クリーンアップ運動」をとおして、生徒が環境保全のための具体的な取り組み方を学んだことが奏功したと考えられる。しかし消灯の徹底等まだ改善の余地は大きく、現在も生徒・職員が環境保全について正しい知識を持つように、保健相談課が主導して意識啓発を継続している。	C、Dの場合、生徒への情報提供のあり方や意識づけ方法を再検討する。	保健相談課 各学年	
		③ ボランティア活動後の振り返りを充実させ、自己の成長を実感させることで、ボランティア活動に積極的に参加する意識を一層高める。	ボランティア活動に参加した生徒の延べ人数が全生徒数の A：85%以上 B：80%以上 C：75%以上 D：75%未満	<b>達成度B</b> 1・2学期中にボランティア活動に参加した生徒の延べ人数は、718人で、83%であった。	達成度D 1学期中にボランティア活動に参加した生徒の延べ人数は、93人で、10.7%であった。	今年度は4月の「伏見川一斉清掃」が大雨のため中止になった影響もあり、1学期の参加者数は振るわなかったが、夏休み以降「サマーボランティア」「わくわく伏見体験」「学校周辺美化活動」「金沢マラソン」「米泉公民館文化まつり」「伏見かわい幼稚園クリスマスサート」等で順調に参加者数が増え、昨年度の延べ701人を上回ることができた。なお、個人でボランティア活動を行っている生徒については、集計に加えていない。	C、Dの場合、活動計画の周知を徹底するとともに、活動の意義を実感させる取組を再検討する。	特活指導課 各学年 各部活動	
学校評議員・学校関係者評価委員の評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入試センター試験に向けて生徒が一丸となって学習に打ち込める体制が確立されつつある。今後は国公立大学に志願する生徒数がさらに増えるように指導してほしい。</li> <li>・国際都市金沢にある学校として、外国語教育に一層力を注いでほしい。</li> <li>・学びの基礎となる国語力養成のためにも、読書に親しむ機会を設けてほしい。</li> <li>・教師の指導力向上には、教科の枠を超えて良い授業を互見することが効果的だ。</li> <li>・地域の声に耳を傾けながら公共心を育ててほしい。今後も多くの生徒がボランティア活動に参加することを期待する。</li> </ul>							
上記評価に対する今後の取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学志願者を増やすために、1・2年次から学習指導・進路指導をさらに体系的に進めていく。</li> <li>・国語や外国語の能力は、授業だけでなく学校生活のあらゆる場面で言語活動を活発にすることで、一層の伸長を図っていく。生徒がスマートフォン等の電子機器を多用する時代において、どのような読書指導が有効であるのか、引き続き研究・検討していく。</li> <li>・研究授業や公開授業をとおした教師の指導力向上に、引き続き取り組んでいく。</li> <li>・ボランティア活動をとおして地域社会と関係を深める中で、意見交換・情報交換を密に行い、地域社会に貢献できる人材の育成に連携して取り組んでいく。</li> </ul>							